

仕事環境 in Bhutan

当然ながら日本と異なった環境，そこで仕事をする上で様々な障害が存在する。それら様々な障害の為に仕事は思うように進まない。

その理由として考えられるのは、

1. 社会インフラの不整備（電気や電話などの基本設備の未整備）
2. 資料の不足（資料を保管しない、資料が紛失する）
3. ペーパーワークの煩わしさ（すべての仕事は文章にして行われるため）

などである。

思うように仕事はかどらず、イライラする事が多々ある。これが日本であったら僕がブータンでこなしている3日分の仕事を1日で楽々こなせるであろう。

1日の仕事が終わった時、日本では「今日も仕事をこれだけこなした！」と充実感に浸ると思うが、ここブータンでは「この仕事は今日も終わらなかった」と日々の仕事の中では感じられない。

私はブータンでは残業が殆ど出来ない。と言うのも終業時刻を過ぎると守衛がやってきて、一刻も早くドアの鍵を閉めたがるのである。そう、日本と違って鍵を閉めれば彼の仕事が終わるのである。よって私の残業につき合わせるわけにはいかないと思い、残業もそこそこに家に帰る。

残業が出来ない替わりとっては何だが、趣味の時間や考える時間を平日でもたくさんとることが出来る。これは日本の生活ではなかなか出来ない事であると思う。日本では仕事を終えて家に着いた時、それから趣味に時間を割いたり、考える事に時間を割いたり出来ていたであろうか？

仕事の充実感をとるか、余暇の時間の充実を取るかは人の価値観によって違うと思う。では、ブータン、日本とどちらの環境にあって、一体どちらが幸せをより多く感じられるであろうか？どちらの国にいても幸せを感じる時もあれば、不幸せを感じる時もあるであろう。個人にとってトータルで幸せを感じる時間が長い環境が、全体的に“幸せ”と思える環境ではないか？と思いにふけりながら余暇の時間を過ごしている。

文責 瀬畑陽介